

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110612			
事務事業名	山岳博物館管理運営一般事業					会計	一般会計				
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	山岳文化都市の形成										
後期計画掲載頁	100		頁	個別計画		社会教育計画			41		頁
事業期間	平成		年	～	平成		年	根拠法令・要綱等 博物館法			

事業の概要
山岳博物館への観覧者および市民と近隣住民等に対し、社会教育の充実と活性化を図るとともに、観光の場や情報の提供を行うための運営と、快適な博物館空間の提供を行う。

事業の目的
来館者の知的欲求を満たすため、快適な空間の提供と健全な運営を行うことを目的とする。

事業内容
博物館の施設管理
博物館の運営

事業費	財源内訳	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		総事業費（決算額）	20,439 千円	21,885 千円	23,999 千円
	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	起債	千円	千円	千円	
	その他財源	5,336 千円	4,183 千円	6,590 千円	
	一般財源	15,103 千円	17,702 千円	17,409 千円	

活動指標	指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	開館日	日	317	199	317	316	100.3%	315
②								
③								

成果指標	指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	入館者	人	16,133	12,237	20,920	18,700	111.9%	21,000
②								
③								
2. 数値で表せない効果 (指標)								

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない理由等
入館者数の増が求められるが決定的な対策がない。

項目	必要性		有効性		効率性	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
点数	3	3	3	3	2	3
評価	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）				
	今後の方向性	継続 本館は昭和56年の建築で、平成26年度に耐震改修にあわせてトイレやキューピクル等を改修したが、冷暖房や浄化槽、重油タンクなどに補修や改修が必要な箇所が生じているため、長期的展望に基づき計画的な改修を進める。 入館者増の対策として、山岳博物館の存在を周知するとともに、観光課、大町博物館連絡会、アートライン推進協議会等との連携を密にして宣伝・周知に努める。				
	評価点合計	17 / 18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110613				
事務事業名	山岳博物館教育普及事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化											
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画							33・37	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等 博物館法						

事業の概要
 自然と人とが共生する山岳文化都市の形成につなげる地域博物館として、地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報を分かりやすく興味もてるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるような内容を工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

事業の目的
 北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した教育普及活動を推進する。

事業内容
 企画展「中部山岳国立公園指定80周年記念、大町市制施行60周年・合併10年記念【日本山岳画協会大町展】」の開催、「付属園まつり」「さんぱくこども夏期だいがく」等の開催、山博友の会との共催による「茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう！」等の開催、学校との連携・融合による授業や課外活動の実施、収蔵資料の貸し出し、「山と博物館」の毎月発行、各種観察会や各集会の共催・協力を行い、問い合わせに対するレファランス活動を行っている。

事業費	年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度
	総事業費（決算額）		4,615 千円	4,554 千円	4,273 千円
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	1,398 千円	202 千円	140 千円
		一般財源	3,217 千円	4,352 千円	4,133 千円

活動指標			平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	企画展・特別展	回	4	2	1	2	50.0%	3
	②	学習会・観察会	回	23	15	24	20	120.0%	25
	③	学校との連携・融合	回	26	37	41	40	102.5%	45

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	企画展・特別展見学者	人	10,096	3,323	12,076	9,400	128.5%	12,100
	②	学習会・観察会参加者	人	1,660	936	1,194	1,120	106.6%	1,200
	③	学校との連携・融合	人	1,009	940	816	1,000	81.6%	1,000
2. 数値で表せない効果 (指標)									

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない理由等

評価	項目	必要性		有効性		効率性	
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
	点数	3	3	3	3	2	3
今後の方向性	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	継続	博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開し、それらの活動が、知的欲求を一時的に満たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動のための、企画展のあり方、教育普及活動の内容や手法等を再構築する必要があります。					
	評価点合計	17 / 18					
		学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをするため、事業を更に拡大して取り組む必要がある。 友の会や市民との協働による事業をさらに進める、市民にとって身近な博物館である意識を高揚する。					

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110614			
事務事業名	山岳博物館調査研究事業					会計	一般会計				
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化										
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画						33	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等					博物館法

事業の概要
博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、独自の活動を進めるほか、国・県や各研究機関等と連携した調査や研究の推進を行う。

事業の目的
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する資料の収集・整理、保存・管理をし、これらを活用した教育普及活動を推進するための基礎となる調査研究を行う。

事業内容
爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測のほか、信州大学山岳科学研究所との共同研究では鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓(氷河)調査の実施(積雪等悪条件のため本調査は翌年度延期)、長野県環境保全研究所との協力協定による温暖化調査等を行った。

事業費	財源内訳	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		総事業費(決算額)	295千円	146千円	2,335千円
	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	起債	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	
	一般財源	295千円	146千円	2,335千円	

活動指標	指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度(H26)	達成率	次年度(H27)
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	自然科学分野調査研究	件	2	1	2	3	66.7%	2
②	人文科学分野調査研究	件	—	—	1	1	—	2
③	外部との協同研究	件	1	2	1	3	33.3%	2

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度(H26)	達成率	次年度(H27)
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①						—	—	—
②						—	—	—
③						—	—	—
	2. 数値で表せない効果 (指標)・信州大学山岳科学研究所や長野県環境保全研究所等との協同研究により、カクネ里雪渓が氷河であることが確認されれば、学術的のみならず地域経済等へも大きな波及効果が期待できる。							

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない理由等
調査研究事業は直接的・具体的な成果が見えにくい。

項目	必要性		有効性		効率性		
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である
点数	3	2	2	3	2	3	
評価	方向性	担当部課等のコメント(評価結果による改善案や今後の取り組み方法等)					
	今後の方向性	継続	鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓(氷河)調査は、信州大学山岳研究所や長野県環境保全研究所、カルデラ砂防博物館と連携図りながら調査を進めてきたが、積雪等悪条件のため、平成26年度中の本調査は断念し平成27年度に実施することとなった。その他、各種研究機関との連携や市民との協働による調査研究については、現在進めているものの内容を精査し、厳選した上、計画的に実施する必要がある。				
	評価点合計	15	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110615				
事務事業名	山岳資料収集保管事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化											
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画							33	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等 博物館法						

事業の概要
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

事業の目的
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎とした教育普及活動を行うために、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理を行う。

事業内容
寄贈・購入・製作による新規資料の受け入れと登録、収蔵資料の燻蒸などの管理、図書資料館へ収蔵する図書の登録・分類・燻蒸・配架の作業を行っている。

事業費	財源内訳	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		総事業費（決算額）	4,040 千円	2,357 千円	4,231 千円
	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	起債	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	
	一般財源	4,040 千円	2,357 千円	4,231 千円	

活動指標	指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	新規収集資料	点	6,288	811	4,231	300	1410.3%	641
②	収蔵資料	点	20,612	20,962	24,683	21,000	117.5%	25,000
③	図書資料	点	33,129	34,223	45,676	34,500	132.4%	46,000

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①						—	—	—
②						—	—	—
③						—	—	—
	2. 数値で表せない効果							
	（指標 ）・収集した資料を対象に調査研究を進めることができた。 ・資料の劣化を防ぎ、将来の資産とすることができた。							

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない理由等
資料収集事業は直接的・具体的な成果が見えにくい。

項目	必要性		有効性		効率性		
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	
	評価	高い	普通	高い	重複なし	普通	適正である
点数	3	2	3	3	2	3	
評価	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	今後の方向性	継続	博物館で取り扱う資料が明確に定まっていない部分もあるため、積極的な資料の発掘や購入に課題があり、資料収集の方針を構築する必要がある。 収蔵庫の収納能力が限界に近くなってきているため、収蔵庫の効率的な収納システムや新たな収蔵施設について長期計画を立案する必要がある。 展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の改善が必要である。				
	評価点合計	16	18				

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110616				
事務事業名	動植物飼育栽培繁殖事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成・環境教育の推進・社会教育の充実と活性化											
後期計画掲載頁	100・108・120	頁	個別計画	社会教育計画							33	頁
事業期間	平成	年	～	平成	年	根拠法令・要綱等 博物館法						

事業の概要
 貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究したりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を飼育・栽培し、展示を行う。

事業の目的
 「自然と人が共生する山岳文化都市」の形成につながる活動の一つとして野生動植物の飼育・栽培・繁殖を行うことを通して、地域の博物館機能の充実を図ることを目的とする。

事業内容
 生体展示として、生きている姿と命の大切さを伝える。飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動を実施する。傷病鳥獣を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。希少野生動物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。付属園の目的を達成するため、施設の整備を順次進める。

事業費	年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度
	総事業費（決算額）		8,267 千円	8,213 千円	9,828 千円
	財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	247 千円	266 千円	246 千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	千円	千円	千円
		一般財源	8,020 千円	7,947 千円	9,582 千円

活動指標			平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	動植物種数	種	27	31	42	32	131.3%	37
	②	新規保護動物収容数	個体	22	9	6	10	60.0%	0
	③	教育普及開催日	日	67	7	6	11	54.5%	9

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	動植物種数	種	27	31	42	32	131.3%	37
	②	保護動物収容数	個体	51	37	29	30	96.7%	21
	③	教育普及と事業参加者	人	1,113	535	815	550	148.2%	550
2. 数値で表せない効果 (指標)									

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない理由等
 傷病鳥獣の野生復帰が困難な状況となっている。

評価	項目	必要性		有効性		効率性	
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
	点数	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
		3	3	3	3	2	3
今後の方向性	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）					
	拡大	ライチョウ飼育施設の建設を含む付属園の整備計画を進めるため、博物館の基本理念を基に、中長期の実施計画を立案し、管理運営体制と施設整備の両面から具体的な事業計画を作成する。既存の整備構想の見直しについて検討する必要がある。					
	評価点合計						

事務事業評価表

担当課	教育委員会	部	山岳博物館	課	山岳博物館	係	事務事業No.	110617				
事務事業名	ライチョウ飼育事業					会計	一般会計					
まちのテーマ	潤いのあるまち					款	10	項	6	目	1	
施策目標	山岳文化都市の形成											
後期計画掲載頁	100		頁	個別計画		社会教育計画				41	頁	
事業期間	平成	23	年	～	平成	25	年	根拠法令・要綱等				博物館法

事業の概要

- ・新ライチョウ舎建設（3棟）及び、スバルバルライチョウの飼育・繁殖

事業の目的

- ・ライチョウ飼育開始に伴う新ライチョウ舎建設（3棟）を行う。
- ・スバルバルライチョウの飼育・繁殖技術の確立に選より、ニホンライチョウの飼育再開を目指す。

事業内容

- ・ライチョウ舎（3棟）の設計
- ・ライチョウ舎（3棟）の建設工事

		年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費	財源内訳	総事業費（決算額）	千円	千円	5,323 千円
		国庫支出金	千円	千円	千円
		県支出金	千円	千円	千円
		起債	千円	千円	千円
		その他財源	千円	千円	千円
		一般財源	千円	千円	5,323 千円

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）
指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	ライチョウ舎数				—	—	3
②	ライチョウ飼育数				—	—	7
③							

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度（H26）	達成率	次年度（H27）
指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①					—	—	—
②					—	—	—
③					—	—	—
2. 数値で表せない効果		<ul style="list-style-type: none"> ・将来的にニホンライチョウの飼育を開始することで、環境省が作成した絶滅危惧ⅠB類であるニホンライチョウ保護増殖計画の推進に寄与することとなる。 					

※事務事業実施における課題及び指標・目標値が設定できない理由等

ライチョウ飼育事業は直接的・具体的な成果が見えにくい。

項目	必要性		有効性		効率性	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化
評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である
点数	3	3	3	3	2	3
評価	方向性	担当部課等のコメント（評価結果による改善案や今後の取り組み方法等）				
	今後の方向性	拡大 スバルバルライチョウ飼育・繁殖技術の確立のための体制整備、施設整備を進める。 ニホンライチョウの早期飼育再開を目指す。 環境省、日本動物園水族館協会等関係機関との調整が必要となり、ニホンライチョウの導入時期については、不明瞭である。				
	評価点合計	17 / 18				